

**PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3 ご使用上の留意・注意事項**

PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2015 年 08 月  
富士通株式会社

**【PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3 共通】****(1) 設置環境、システム運用上の留意事項について**

設置環境、システム運用上の留意事項についてはシステム構築上の留意事項「設置・運用上の留意事項」をご確認ください。

**(2) USB メモリの購入について**

一部作業において USB メモリが必要な場合があります。

USB メモリを必要とする作業については、技術情報(<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/technical/>)の「PRIMERGY における留意事項」の「FDD ユニットもしくは USB メモリを必要とする作業(モデル別)」をご確認の上、富士通コワーコより推奨品を販売しておりますので、必要に応じてご購入をお願いいたします。

<http://jp.fujitsu.com/group/coworco/services/supply/media/usb/>

なお、「ハードウェア暗号化機能」を搭載した USB メモリでは行なうことができない作業があります。詳細は上述の「PRIMERGY における留意事項」の「FDD ユニットもしくは USB メモリを必要とする作業」をご覧ください。

**(3) Onboard LAN 使用時の注意事項**

- Standard LAN では、WOL / PXE / iSCSI boot は未サポートです。
- Shared LAN では、iSCSI boot の使用はできません。
- Shared LAN ポートは、BIOS 設定の [Server Mgmt] メニュー - [iRMC LAN Parameters Configuration] - [Management LAN Port] が “Shared” に設定されている場合、WOL 機能を使用できません。WOL 機能をご使用になる場合は本設定を “Management” へ変更する必要があります。

**(4) Linux+Onboard SATA RAID 使用時の注意事項**

Linux+Onboard SATA RAID 使用時は、Dump 機能は未サポートとなりますのでご注意ください。

**(5) KVM スイッチ (PG-SB205 / PG-SB206) ご使用時の注意事項**

KVM スイッチ (PG-SB205 / PG-SB206) を接続してご使用になる場合、POST から OS 起動中にマウス及びキーボード操作を行なうと、OS 起動後にマウス及びキーボードが動作しなくなる場合があります。OS 起動後にマウス及びキーボードが動作しない場合には、KVM スイッチの取扱説明書をご確認いただき、KVM スイッチのリセット操作を行なってください。

**(6) UEFI モードでの OS インストールに失敗する場合があります**

UEFI モードでの OS インストールは未サポートとなります。

BIOS 設定の [Boot] メニュー - [UEFI Boot] を “Enabled” に設定して OS インストールを行なうと、インストールに失敗する場合があります。この事象は “Disabled” (工場出荷時設定) では発生致しません。

なお、本設定における “Enabled” 設定はご使用になれません。

**(7) BIOS 上でのエラーステータスの解除方法について**

BIOS 上で各種(例: DIMM, PCI スロット)エラーステータスを“Enabled”に戻した際、[Save & Exit]メニューから“Save Changes and Exit”で BIOS セットアップを終了させてもステータスが更新されない場合があります。BIOS 上でエラーステータスを“Enabled”に戻した後は、[Save & Exit]メニューより“Save Changes and Reset”を選択して BIOS セットアップを終了させてください。

**(8) SAS アレイコントローラカード(PY-SR2W0 / PYBSR2W0)ご使用時の留意事項**

SAS アレイコントローラカード(PY-SR2W0 / PYBSR2W0)を搭載し、ストレージデバイスを接続している場合、POST 中にカードとストレージデバイス間で通信確認を行うため起動に時間がかかります。(最大で約 70 秒長くなります)

これは装置の異常ではありませんので、POST が正常に終了すれば問題ありません。

**(9) SAS アレイコントローラカード(PY-SR2W0 / PYBSR2W0)ご使用時の制限事項**

Red Hat Enterprise Linux 6 がインストールされ、かつ SAS アレイコントローラカード (PY-SR2W0 / PYBSR2W0) が搭載されている場合、OS のイベントログに以下のメッセージが複数回記録される場合があります。本メッセージが記録されても装置に異常はありません。

*megaraid\_sas 0000:06:00.0: vpd r/w failed. This is likely a firmware bug on this device. Contact the card vendor for a firmware update.*

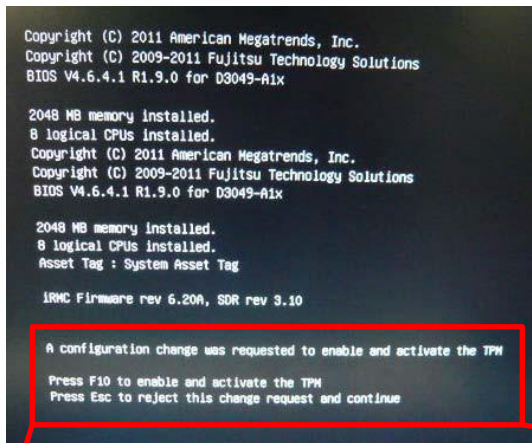
**(10) SAS コントローラカード(PY-SC2Z0 / PYBSC2Z0)ご使用時の制限事項**

Red Hat Enterprise Linux 6 がインストールされ、かつ SAS コントローラカード(PY-SC2Z0 / PYBSC2Z0)が搭載されている場合、OS のイベントログに以下のメッセージが複数回記録される場合があります。本メッセージが記録されても装置に異常はありません。

*mpt2sas 0000:02:00.0: vpd r/w failed. This is likely a firmware bug on this device. Contact the card vendor for a firmware update.*

### (11) セキュリティチップ(PY-TPM01 / PYBTPM01)ご使用時の注意事項

セキュリティチップ(PY-TPM01 / PYBTPM01)が搭載されている場合、起動中に[セキュリティチップの有効化]または[有効化せずに装置を起動させる]のどちらかを選択する下記の画面が表示されます。なにも選択せずに放置した場合、ウォッチドッグタイマーによりシステムがリセットされる場合がありますので、下記メッセージ表示後は速やかにF10キー、もしくはEscキーを選択してください。尚、セキュリティチップの有効化を行なった後は、本メッセージは表示されなくなります。



**A configuration change was requested to enable and activate the TPM**

**Press F10 to enable and activate the TPM**

**Press Esc to reject this change request and continue**

### (12) SAS アレイコントローラカード(PY-SR2L2 / PYBSR2L2 / PY-SR2C2 / PYBSR2C2 / PY-SR2W0 / PYBSR2W0 / PYBSR2W0L)ご使用時の留意事項

SAS アレイコントローラカード(PY-SR2L2 / PYBSR2L2 / PY-SR2C2 / PYBSR2C2 / PY-SR2W0 / PYBSR2W0 / PYBSR2W0L)を搭載している場合、BIOS 設定の[Advanced]メニュー - [PCI Subsystem Settings] - [PCI ROM Priority]の設定値は“Legacy ROM”でご使用ください。“EFI Compatible ROM”はご使用になれませんのでご注意ください。

“EFI Compatible ROM”はご使用になれませんのでご注意ください。

### (13) SAS アレイコントローラカード(PY-SR2C2 / PYBSR2C2)ご使用上の留意事項

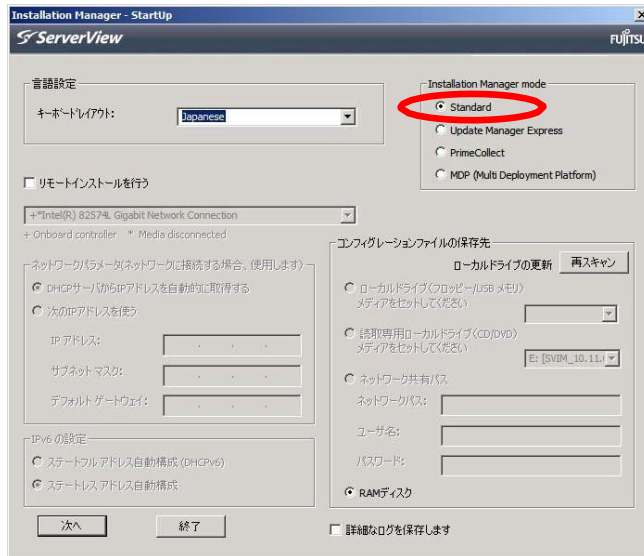
SAS アレイコントローラカード(PY-SR2C2 / PYBSR2C2)を搭載、かつ、4 本以上のホットスペアディスク(または未使用ディスク)が搭載されている場合、稀にシステムが起動しない場合があります。本構成でご使用になる場合、ご使用前に以下手順に従い、各種設定を行なってください。

注意:未使用ディスクとは、アレイ構成に組み込まれていないハードディスクを指します。
---

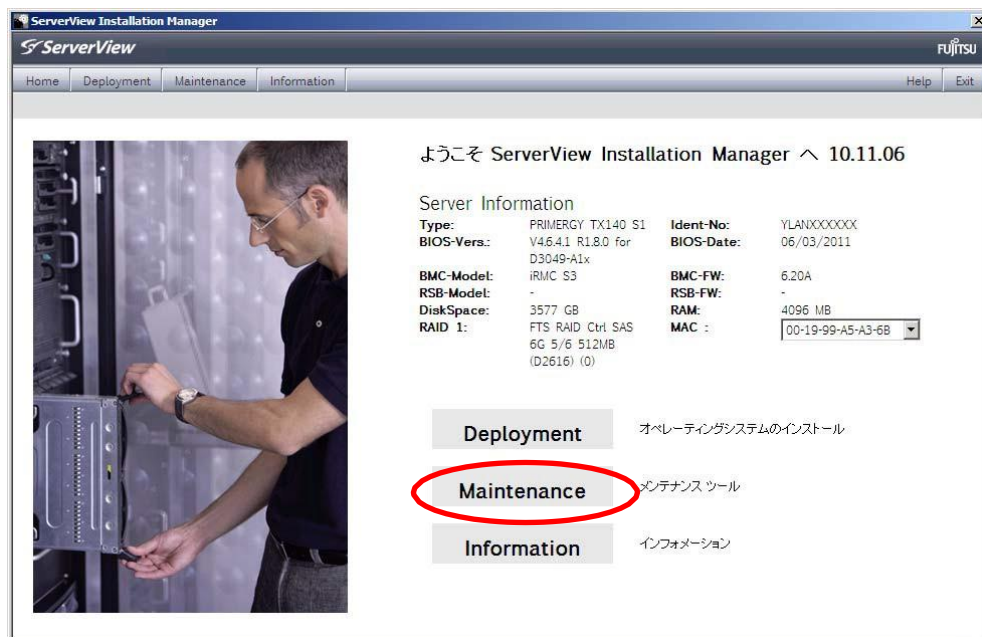
- ◆OS インストール前の場合 → Page 5 『A. OS インストール前の場合』参照  
未使用ディスクを残したまま、これから OS をインストールする場合などは本手順に従って、ServerView Suite DVD を使用して設定の変更を行なってください。
- ◆OS および ServerView RAID Manager が既にインストールされている場合 → Page 8 『B. OS および ServerView RAID Manager が既にインストールされている場合』参照  
既に OS がインストールされている状態に、ホットスペアディスクや未使用ディスクを追加搭載する場合は本手順に従って ServerView RAID Manager から設定の変更を行なってください。

## A. OS インストール前の場合

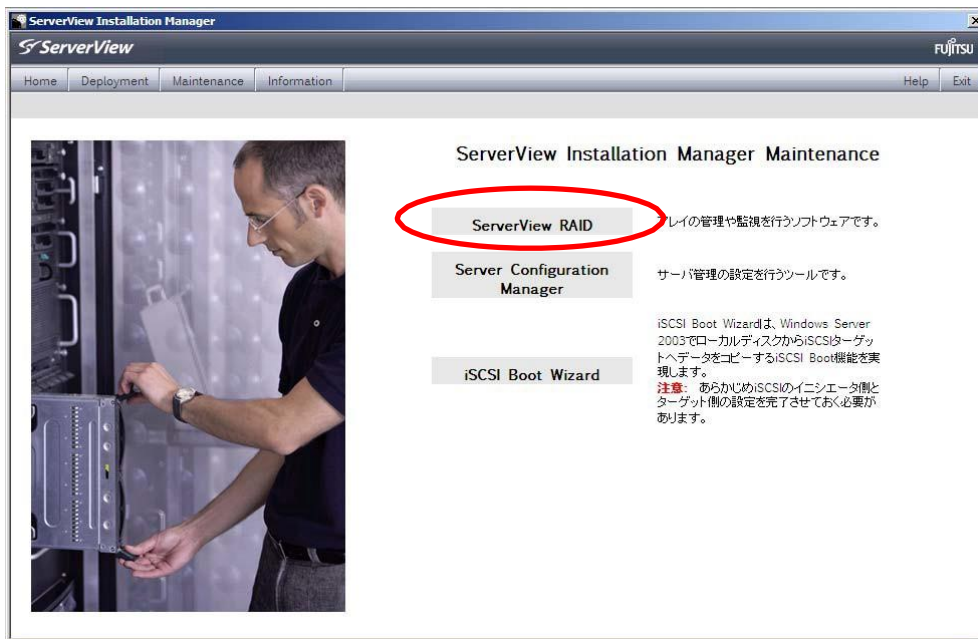
- 1) 「ServerView Suite DVD 1」をサーバにセットし、DVD から ServerView Installation Manager (SVIM) を起動します。
- 2) 言語選択後、StartUp 画面から「Standard」を選択して、「次へ」をクリックします。



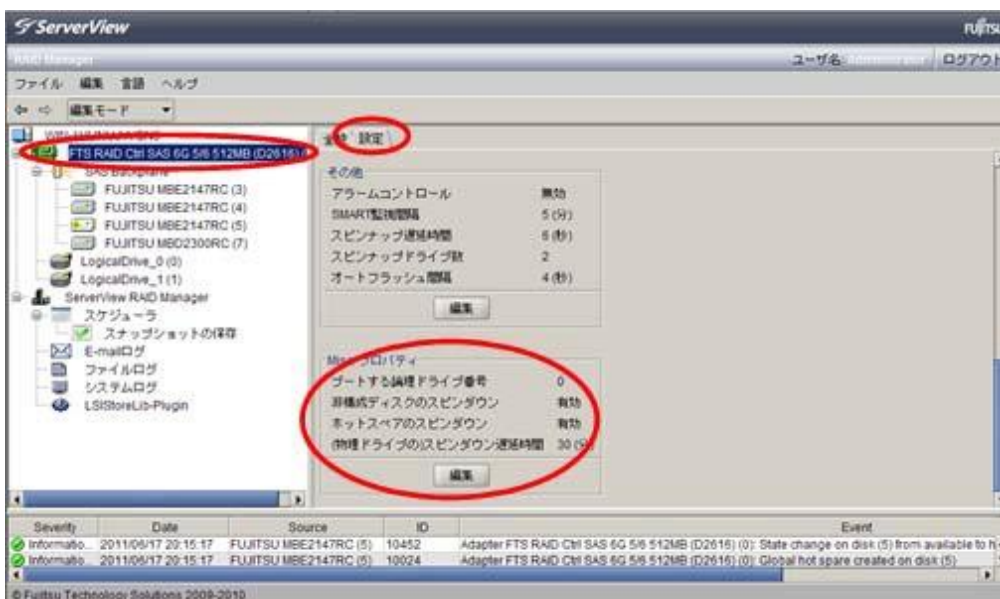
- 3) 次の画面で、「Maintenance」をクリックします。



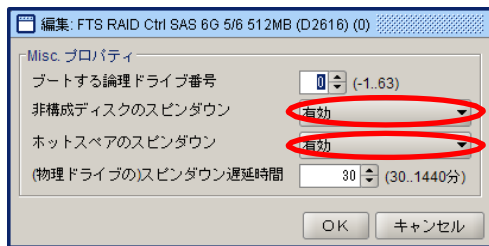
4) 「ServerView RAID」をクリックすると、ServerView RAID Manager が起動します。



対象となるアレイコントローラを選択して、右画面の[設定]タブをクリックします。  
この設定画面の下側の[Misc プロパティ]から「編集」をクリックします。

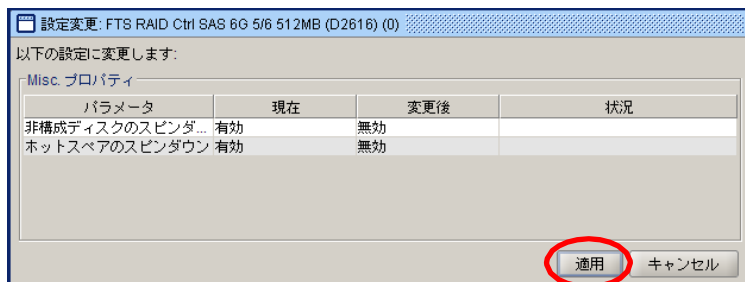


- 5) 編集のポップアップ画面が表示されるので、以下の項目について設定を変更して「OK」をクリックします。



非構成ディスクのスピンドウン : 「無効」  
ホットスペアのスピンドウン : 「無効」

- 6) 確認画面が表示されるので、「適用」をクリックします。



- 7) 以上で設定変更は終了です。画面右上の「ログアウト」をクリックして ServerView RAID Manager を終了させた後、ServerView Installation Manager 画面から「Exit」→「Shutdown」を実行して SVIM を終了させます。



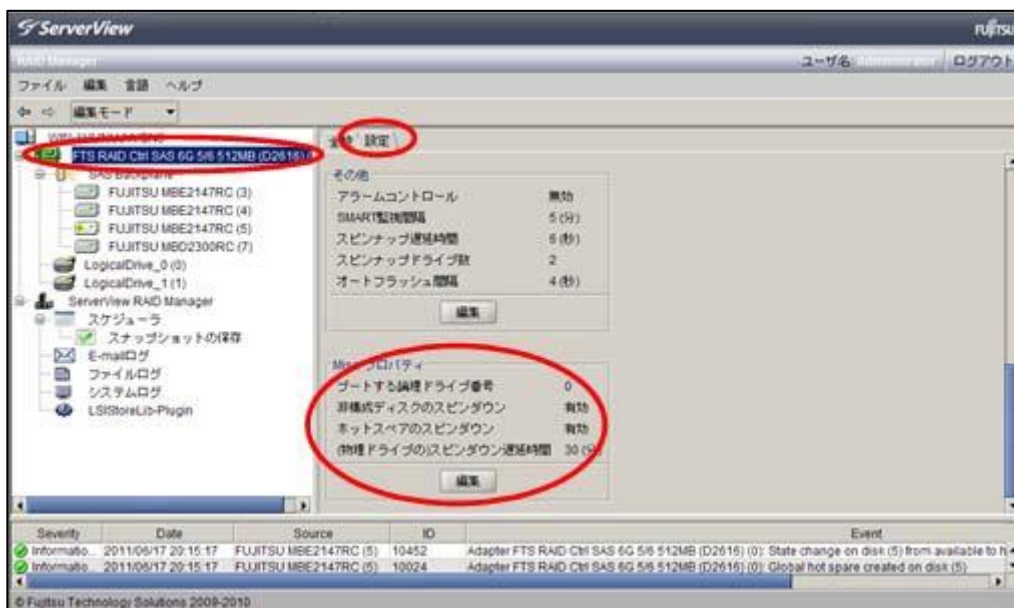


B. OS および ServerView RAID Manager が既にインストールされている場合

- 1) ServerView RAID Manager を起動してログインします。

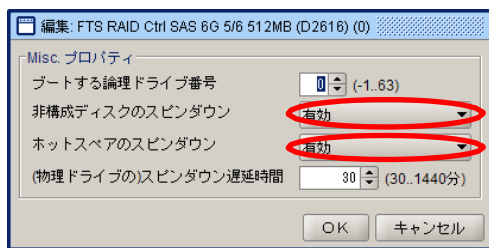


- 2) 対象となるアレイコントローラを選択して、右画面の[設定]タブを選択します。  
この設定画面の下側の Misc プロパティから「編集」を選択してください。



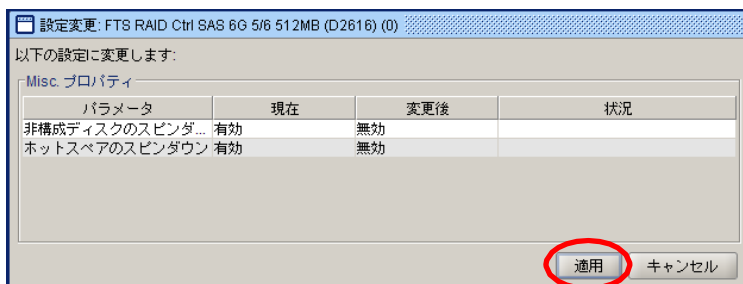


3) 編集のポップアップ画面が表示されるので、以下の項目について設定を変更して「OK」をクリックします。



非構成ディスクのスピンドアウン :「無効」  
ホットスペアのスピンドアウン :「無効」

4) 確認画面が表示されるので、「適用」をクリックします。



5) 以上で設定は終了です。画面右上の「ログアウト」をクリックして ServerView RAID Manager を終了させます。

#### (14) ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008(SP2): KB2710558(Hotfix 適用後、レジストリ変更が必要)

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

##### ※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2012 年 12 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

・Windows 2008 (SP 無)、Windows 2008 +SP1 用の Hotfix は公開されていません。

SP2 適用後に Hotfix を適用願います。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワー

ク関連情報を再設定してください。

- 1) デバイスマネージャを起動します。  
コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。  

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
start devmgmt.msc
```
- 2) 非表示デバイスを表示可能にします。  
デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。
- 3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。  
色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

#### (15) Java 8 update 45(8u45)でのビデオリダイレクション(AVR) 機能の留意について

(対象 iRMC ファームウェア版数: 全版)

※本事象は Java 8 update 51(8u51)以降の版数では発生いたしません。

Java 8 update 45 (2015 年 4 月 14 日公開)を適用した管理端末でビデオリダイレクションを起動する場合、プロキシサーバを使用する環境において、以下のメッセージを表示して本機能が動作しないことがあります。



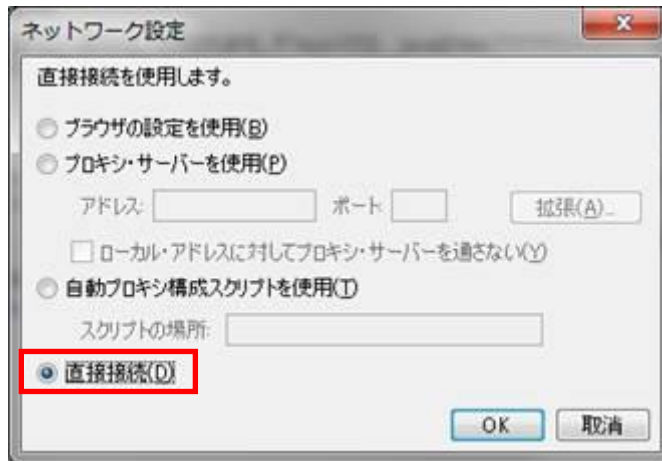
本事象は、以下のいずれかの方法で回避可能です。

- ① ビデオリダイレクションを起動する管理端末でプロキシサーバを利用しない設定にする。
- ② プロキシサーバの設定で java.com へのアクセスを許可する。  
注) 上記①②、設定をするに当たり、お客様ネットワーク管理者に確認ください。

なお、本事象は Java 8 update 40(8u40)以前の Java 版数では発生いたしません。

< 回避策①における管理端末の Java のネットワーク設定例 >

- (1) [スタート]メニューから [すべてのプログラム] → [Java] を選択します。
- (2) [Java の構成] をクリックして、[Java コントロール・パネル] ウィンドウを開きます。
- (3) [一般] タブを選択し、[ネットワーク設定] ボタンをクリックします。
- (4) [直接接続 (D) ] を選択し、[OK] ボタンを押下。設定を保存し、終了してください。なお、設定変更後は WEB ブラウザの再起動が必要です。



## 【PRIMERGY TX120 S3】

### 1. 電源動作について(ゼロワット機能対応電源搭載モデル)

PRIMERGY TX120 S3 のゼロワット機能対応電源搭載モデルにおいて、下記のとおり運用にあたり留意事項があります。ご使用にあたってはマニュアルと併せ本情報をご確認ください。

[対象機種]

装置名	対象型名
PRIMERGY TX120 S3	全型名

[留意事項 1]

ゼロワット機能有効化設定の状態によって、下記のとおり装置の挙動が変わります。

#### ■ゼロワット機能が無効に設定されている場合(デフォルト設定)

- ①システムボードや電源ユニットの部品交換直後、またはシステムボード上の電源コネクタ(「POWER1」または「PWR」)を挿抜した場合

初回の AC 給電時は、電源ボタンを押さないと装置前面の電源表示ランプはすぐには点灯せず、スタンバイ状態にもなりません。

※電源制御装置や、無停電電源装置によるスケジュール運転実施時にご注意ください。

AC 給電後電源投入したい場合は、電源ボタンを押下してください。一度電源ボタンを押せばスタンバイ状態になり、もう一度押すと電源がオンになります。

以降の電源投入は、通常通り、AC 給電されるとすぐにスタンバイになり、電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。

- ②AC 給電が断たれた場合(AC ケーブルの抜き差しを行った場合、等)

上記以外で AC 給電が断たれた場合(AC ケーブルの抜き差し、または電源制御装置や、無停

電源装置による AC 切断、等)、AC 給電後、電源表示ランプが点灯するまでの時間は AC 給電が途絶えていた時間に依存します(最大で約 5 分要します)。

ただし、この場合は AC 給電されると自動的にスタンバイ状態になります。

#### ■ゼロワット機能が有効に設定されている場合

パワーオフ後、使用電力が 0.0 ワット(スタンバイ電源なしの状態)になるため、AC ケーブルを抜いた後、再度挿しても自動でスタンバイ状態にはならず、電源表示ランプも点灯しません。

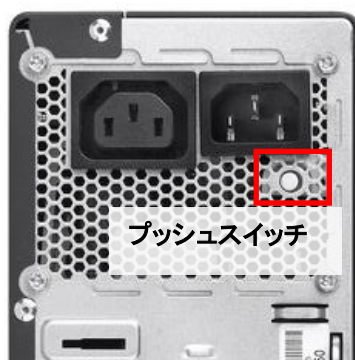
電源ボタンを押せばスタンバイ状態になり、電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。

電源ボタンをもう一度押すと電源がオンになります。

#### [留意事項 2]

ゼロワット機能対応電源には下図に示す白色のプッシュスイッチが搭載されています。

このプッシュスイッチは、電源供給状態確認のポーリング周期\*1 を無視し、ただちに AC 供給したい場合に押下する事で、AC 供給→電源投入が可能となります。



\*1) 本電源ではポーリング回路が AC の入力を定期的に監視しています。

AC 入力が無い間、ポーリング回路は MoBo 上のリチウム電池から電力供給を受けて動作し、AC 入力を検出すると電源はシステムボードに電力供給を開始し、電源投入が可能となります。

ポーリングの周期は AC 無通電期間により徐々に長くなり、AC 入力からシステムボードへの電力供給は最大 5 分程度の時間差が生じることがあります。

以上